



両プロジェクトサイトの大半で収穫が終了、農家はコメ買取り開始に期待!

成果 1: 栽培技術



< ブルトでのFFS収量ワークショップ >

1. Farmers Field School (FFS) 2020/2021 ワークショップ

ブルトにおいて5月5、10、16日に農業普及員と共に、収穫と収穫後処理に関する第5回目のワークショップを実施した。ワークショップでは、モデル農家が自らの経験を共有すると共に、参加者皆で収穫後処理やコメ品質に関し意見交換を行った。

2. 収量調査

マリアナIにおいて、収量調査および収量構成要素調査を行った。79名のFFS参加農家の収量調査結果は、平均5,661kg/haを示した。この好調な単収は、FFS参加農家が推奨される量の施肥を行ったこと、若い(成長し過ぎていない)苗を移植したこと、および適切に病害虫防除を実施したことに起因すると考えられる。品種毎の収量構成要素調査では、チヘラン種で5,644 kg/ha、IR64種で6,043 kg/ha、ナクロマ種で5,817 kg/haの単収結果となった。プロジェクトでは、これまでの生育記録や収量調査データに基づき、FFS参加農家毎の栽培指導書を作成し、来期作の更なる栽培技術改善に繋がるよう普及員やFFS参加農家と共に今後話し合いや検証を続ける。

成果 2: 灌漑管理



< ゲートキーパーに対するインタビュー調査 >

1. ゲートキーパーに対するインタビュー調査

ブルトとマリアナIの両灌漑地域の現状を把握するためのインタビュー調査を5月26日に開始した。この調査は、短期専門家の榊専門家の指導の下、灌漑施設維持管理、灌漑水配分、水利組合(WUA)の状況などの状況を理解するために1か月かけて関係者にインタビューを行う予定である。この5月には全ゲートキーパーに対する調査が終了した。プロジェクトでは、このインタビュー調査を通じてそれぞれの灌漑地域が抱えている課題を明らかにし、それぞれのWUAがこれらの課題を解決していくための能力を強化できるようなワークプランを策定する予定である。

2. JICAオンライン研修

ブルトWUAの副代表とプロジェクトナショナルスタッフの計2名は、5月17日から28日の期間にJICA北海道にて実施された、JICAオンライン研修「農民主体型用水管理システム」に参加した。研修を通じて習得された知識やスキルが、今後ブルトとマリアナIの各々のWUAの能力強化のために適用されることが期待される。

成果 3: 物流と販売 (民間)



< 刈払機のデモンストレーション >

1. チャクブ農家組合メンバーシップ

143名のメンバーシップ農家がこれまでに収穫を行った。収穫時にプロジェクトスタッフは、刈払機と脱穀機の使い方を農家にデモンストレーションで示した。刈払機にて稲を刈り取り、刈り取った稲をすぐに脱穀することにより、収穫から脱穀までの作業効率を高めると共に、刈り取られた稲が圃場で長期間放置されコメの品質劣化を招くことを回避する効果が期待される。

2. アセルダ社メンバーシップ

アセルダ社は、自社圃場の稲を自身が所有する収穫コンバインにて収穫した。アセルダ社は今年多くの籾を購入する計画があり、ブルト地区のみならずマリアナ地区からも購入を検討しているため、アセルダ社とチャクブ組合の調整がスムーズに進むようにプロジェクトはその調整を支援した。

成果 4: 買取と配布 (政府)

1. National Logistic Center (NLC)によるコメ買取り準備

NLCは2つの籾買取り価格、農家の圃場でNLCが買い取る場合：\$ 0.40/kgおよび農家が3トン以上の籾をNLCの倉庫まで運搬し同倉庫にて買い取る場合：\$0.52/kgをNLCの管轄省庁である経済調整省の大臣に説明すると共に、この価格にて今年籾を買い取りを行うことに対する大臣の最終承認を得られるよう、引き続き大臣と打ち合わせを行った。NLCによる大臣への説明を補足するため、プロジェクトは上記2つの価格の差を分析し、差額の妥当性をNLC長官に説明した。

2. コメタスクフォース再設立

プロジェクトと農業水産省は、現在のタスクフォースメンバー案をより簡素化することを協議した。この協議結果に基づき、プロジェクトはコメタスクフォースのJoint DispatchとTerms of Referenceを作成した。